

江戸時代の絵画の開花

ファインバーグ・コレクションの日本の名作

17世紀から18世紀に日本に現れた絵画流派の典型的な作品を展示することで、この展示会は日本の絵画芸術が、中世に一般的であった伝統的な中国および日本の様式からどのようにして発展したかが鑑賞者に分かることを助けるものです。

16世紀から17世紀の城郭および上級武士のために主要な位置を占めていた、土佐派、狩野派のオーソドックスな作品に焦点をあてるよりむしろ“江戸時代の絵画の開花”は琳派、丸山・四條派、文人画と浮世絵流派と共に江戸時代の独立した画家、の新しい華麗な様式に光を当てています。

展示の各区画では詳しい特色と、これらの絵画流派の代表的な芸術家について説明し、この方法で江戸時代の絵画を全体として概観しようとしています。

展示されている作品はまた、有名な日本の舞台、働きまた遊ぶ人々、それに東アジアの歴史、伝説、文学から引用された絵画的場面などを取り出しています。

この展示は日本以外で初公開の日本絵画のコレクションを作り上げた、著名なアメリカ人コレクター ロバートアンドベッツィー・ファインバーグ (**Robert and Betsy Feinberg**) の所蔵品からのものです。

この展示は The Miriam and Ira D. Wallach Foundation Fund により可能になりました。